

簡単な分別で実現するリサイクルがいい

付属品がついていてもリサイクルできる世の中に

—— BIOTECHWORKS-H2は付属業界全体の流れを変えてくれる兆し

業界でもサステナブルを取り入れる動きはありますが、顧客満足度に寄り添う密着したビジネス形態なので、時にサステナブルを前面に出すことが難しい場合があります。特に、付属品はアパレルと切っても切れない関係であるにもかかわらず、衣服のように混率が記載されていない付属品がほとんどです。そのため分類するのはほぼ不可能です。本気でリサイクルするためには100%分別する必要がありますが、ボタン一つとっても、プラスチック、金属、貝など多種にわたります。付属品もなんとなくリサイクルの流れに乗っていますが、一部はただ廃棄するだけで、グリーンウォッシュやグレーゾーンになりがちです。そこを本気で変えていきたいと思いました。

—— 現時点でこれしかないなと思った

単一素材はリサイクルに向いていると世の中には広まっている一方で、付属品が頭を悩ませています。もちろんゴミにならない素材を使用し、付属品を作ることはあると思いますがどうしても無理な部分があります。付属品を取り除いても産業廃棄物になるし、取り除くことが非常に手間です。すでに流通しているものを世の中のゴミにしない方法を考える必要があり、今までいろいろな解決策を模索しましたが良い手段が見当たりませんでした。そこが一番応援したいと思うところです。



BIOTECHWORKS-H2のTシャツを着て微笑む代表の西川と、巻瀧氏

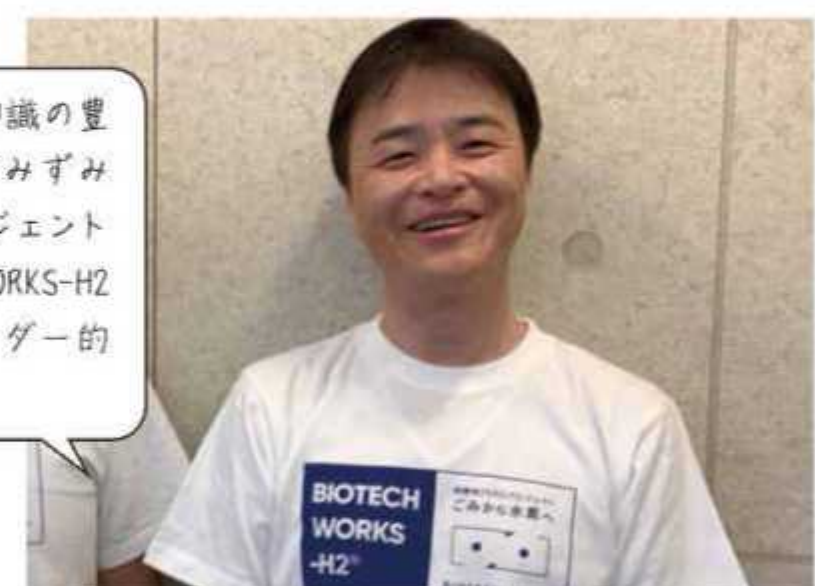
—— 回収した服を水素化するという今までにない切り口で世の中にBIOTECHWORKS-H2を広げていきたい

BIOTECHWORKS-H2の「水素化する」というフレーズが斬新で他では聞いたことがありませんでした。ものを作るうえでエネルギーは必ず必要であることに着目したサービスは画期的だと思いました。

個人で広めるのも自社だけで広めても限界があるし、いろんな人に広めて、みんなに賛同してもらったほうが実現する可能性が高くなると思いました。

個人としてBIOTECHWORKS-H2の考えが正しいと思っているので、そこが一番のモチベーションになっています。

温かな雰囲気と知識の豊富さがトークのすみずみから感じれる。ジェントルマン。BIOTECHWORKS-H2 きっかけの応援リーダー的存在。



つくる楽しみ、魅せるよるこび

清原株式会社
アパレル事業部
巻瀧 大さん